

二〇二五年度 大妻中野中学校 第一回海外帰国生入試

十一月二十二日 問題用紙

國

語

受 驗 番 号	番
	氏 名

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて全部で9ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認してください。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに受験番号と氏名を忘れずに記入してください。
受験番号は算用数字で記入してください。
- (四) 試験時間は五十分です。
- (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

【一】次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（ただし、句読点や記号も一字に數えます。）

日本人は、視線を合わせない

あなたは人と話をするときに、視線を合わせますか。視線を外して下を向いて、□マイペースで話をしますか。

視線の向け方は、マナー本などにもよく出る話題のひとつです。相手の目を見すぎるのは失礼だといわれる一方で、面接を受ける時には、相手の目を見てしつかり話を聞き、話をする時には鼻のあたりを見ましようなどと、事細かに書かれています。

視線を見る発達と比べると、こうした行動は不思議なことです。^①赤ちゃん時代には、目は自然に注目する対象であつたのに、大人になつたら「目を見て話せ」とマニュアルにわざわざ書かれるのは、どういうことでしょうか。

大人になるにつれて、顔や視線を見る際に複雑な感情が伴うようになります。顔を見たり、顔を見せたりすることは感情が切り離せないのですが、その感情が複雑になっていくのです。生まれたばかりの赤ちゃんは、泣いたり怒ったりといった単純な感情の噴出を見せるだけですが、やがて、感情を隠したりわざと見せて、相手との関係の調整に感情を使うようになります。はにかみや恥じらい、わざと泣いてみせるとか、相手との関係を前提とした感情がつくり出されます。さらに事態を複雑にしているのが、脳で感情に関わる^{*1}扁桃体の発達です。対人的な恐怖も伴うようになることも重要です。そしてそれだけでなく、成長するにつれてその文化固有のしきたりを獲得することも視線と大いに関係があるのです。

□ I 欧米人と比べると日本人は、視線を合わせることが少ないといわれています。同じ東洋人の中でも、日本人の視線の取り方は特別とみなされるようです。「日本人は顔ではなくて、ネクタイを見ているんだろう」と冗談交じりに語る中国人研究者もいます。アイカメラで目の動きをしつかりと測定した実験からも、日本人の視線の特異性は明らかになっています。顔写真を一つひとつ見せて、どのように観察するかをアイカメラで調べたのです。その結果、

X

視線を合わせないことは日本人の礼儀で、それがしつかりと身についているのでしょうか。□ II この見方は、顔を記憶するのが苦手な人の見方にも類似しています。ということは、日本人は一般的に、顔を覚えるのが苦手といえるのでしょうか？

その答えを^{*2}示唆する、別の研究があります。顔を覚える結果と矛盾しているようですが、相手が笑っているか怒っているかといった表情を判断するときは、日本人は目の周りを見る傾向が強いそうなのです。こちらも欧米人は、顔を全体的に見る傾向があるのです。つまり日本人は、顔を覚える時は目を見ずに、表情を区別する時は目を見るという矛盾した傾向があるのです。

心理学を利用する際の注意点

この結果を紐解くために、少々古い研究にさかのぼります。ここで少し話はそれますが、心理学での古典的な研究の取り扱い方の注意点について、少し触れておきましょう。科学的な心理学の中で古い研究をさかのぼるには、若い皆さんには注意が必要だからです。

心理学は日本では文科系の学科に位置していますが、そもそもが科学的研究であることを忘れずにいることは大切です。科学は^②しのぎを削つて最新の成果を提案し、常に常識が更新される分野でもあります。もちろん心理学も同様ですが、心理学の中には臨床心理学や犯罪心理学などのように、心理学を技術として利用する分野もあり、またその周辺には教育学など隣接する研究領域もあるため、この常識を忘れてしまうことも多々あるようです。

科学的な心理学では、新しいデータによつて次々と古い常識が更新されていきます。にもかかわらず情報が更新されずに、過去の遺物^{いぶつ}が未だに信じられ続けるような、奇妙な状況も見受けられます。でつちあげでしかなかつた、狼に育てられたとされる狼少女の伝説的な逸話^{いわ}や、赤ちゃんは目も見えず耳も聞こえない、白紙のままで生まれるといった逸話が、つい最近まで教科書に残り続けていたことは、驚愕^{きょうがく}に値することです。

そこまで極端な話ではなくても、技術革新^{かくしん}とともに捨て去られるべき研究が、未だに研究として取り上げられようとしているところもあります。残酷な事例としては、精神医学でのロボトミー手術があげられます。脳の前頭葉^{ぜんとうよう}を切除して精神疾患^{しじん}を治すというロボトミー手術は、医学の進歩により今では向精神薬に取つて代わられましたが、当時はアイスピックで眼窩^{がんか}から手術するという簡便な手法も考案され、結果多くの手術が行われました。これは、古い手法を捨て去る勇気を持つことも必要という事例といえましょう。過去の知見を伝える研究は、歴史的な知見としては重要であつたとしても、これから研究すべきものではないということです。

心理学を応用として使う立場であつても、最新の成果を知らないことは問題となりえます。^③役に立たないどころか、害^{いがい}すらあります。

たとえば単語の切り分けをはつきりさせ、言葉を獲得するにはワンワンやマンマンといった「赤ちゃん言葉」が必須^{ひつす}ということが、最新の研究で明らかになつているのですが、「赤ちゃん言葉を使つてはダメ」と大きな声で訴える人たちもいます。子どもを混乱させるからという主張なのですが、もちろん何の根拠もありません。■ III 科学的なデータに基づいた最新の知識があるにもかかわらず、自分の経験に基づいた誤った実践を押し付けているわけです。

ここまで大きくなくとも、小さな問題もたくさんあります。たとえばディスレクシア（言葉の読み書きが苦手な障害）は英語を使用する国に多く出現するので、幼少期の英語学習にはじゅうぶん配慮すべきであるということ。乳児期には母国語のしつかりした獲得が必要で、外国語のむやみな学習には注意を要すること。こうしたさまざまなかつらが、最新の研究で明確^{めいがく}になつています。もちろん、過去の＊3 知見^{ちけん}の中でも、技術的な格差を考慮した上で、「知識」として役立つものもたくさんあります。いまさらタイプライターを使ってレポートを書くように、その時代と同じように研究する人はいないわけですが、知識として知ることと、最新の成果があることを切り分けて把握することは大切なことです。

日本人の敏感さ

話を戻しましょう。二〇一〇年代に発見された日本人の視線の法則をもとに、古典的な研究を探つてみると、日本人の文化的背景がみえています。

一九七〇年頃に流行った、アメリカの発達心理学者AINZWERSによる「愛着理論」による研究です。実験では、ひとつの部屋と協力者を使って、子どもを特定の状況に置き、その際の行動を調べています。

IV 知らない部屋に入り、お母さんと一緒に遊びます。やがて知らない女性が入ってきて、その後にお母さんが席を外すというシチュエーションをつくり出します。そこで出て行くお母さんにどう振る舞うかが、観察されるのです。
対象は、生後一二一十八ヶ月の赤ちゃんです。お母さんの不在にまつたくの無関心でいることも問題とされるのですが、アメリカの基準でいうと、お母さんが不在になつても、むやみに取り乱さないことがよしとされるのです。ところがこの実験を日本で行うと、ほとんどの赤ちゃんがお母さんの不在に明らかな不安を示し、追いかけたり泣いたりすることがわかりました。

欧米の基準からすると、日本の大半の親子は問題があるとみなされるのです。日本人の子育てがおかしいというのは、欧米基準のゆがんだ話でもあるでしょう。このことから、日本を含む東アジアは、欧米とまったく異なる基準を持つ文化を持つことが明らかとなつたのです。

最新の技術を駆使した実験からは、文化的な違いがもつと幼いころから始まることがわかつています。顔を見せたときにどこを見るか、視線の動きを追跡した実験から、七か月ころから文化による違いがあることがわかつています。つまり、日本人は赤ちゃんの頃から、表情を見るときに目を注視する傾向があつたのです。

V このような^④文化的違いが、幼いころから存在するのでしょうか。日本と欧米との表情を見るときの注目する部分の違いは、表情のつくり方の違いに原因がありそうです。

ハリウッド映画やアメリカのテレビ番組を見ると感じるよう、欧米の人たちの表情のつくり方は大げさです。日本人が欧米に行くと、ただ街で人とすれ違うだけでも、ふだんよりも強く口の周りの筋肉を動かして、笑顔をつくらなければならぬ気持ちになります。欧米と比べると日本人の表情は、大きな動きが少ないので特徴なのです。大きく口を開けて笑うよりも、につこりと笑う目で、感情を伝え合う傾向があるのです。

それに従うように、日本人が表情を見るときの視線の行く先は、目に集中します。それはまるで、目で示された小さな変化を一所懸命に検出しうとしているように思えます。

視線の行く先から、日本人はデリケートな感情の伝え合いを読み取っていることが証明されたともいえましょう。それがなんと、生後七か月という小さな赤ちゃんでも習得しているのです。なんとも不思議なことです、小さな頃から文化のシャワーをあびて、それが文化を形成していくともいえるのです。

視線の動きから、日本人特有の表情のやり取りの繊細さがわかりました。私たちはとても微妙な変化で表情を伝え合っていること、それをとても

せんさい

小さい頃から身に付けているのです。一方それは、非常に洗練化されているがために、とてもわかりにくいものになつてていることは、自覚しておるべきです。他の文化に見られないほどに洗練化されて細密化された感情のやり取りが、「空気を読め」とか「空気が読めない」とか、そんな風にないことを責める方向にもつながっていくようです。でもそれはいわば特殊能力であり、本来は Y 、そんな風に考える必要があるのです。

〔注〕

- * 1 扁桃体：^{へんとうたい}アーモンド形の神経細胞の集まり。
- * 2 示唆：^{しさ}それとなく示し、教えること。
- * 3 知見：^{ちけん}物事を見聞きして得た知識や情報。

(山口真美『自分の顔が好きですか？——「顔」の心理学』岩波ジュニア新書より)

問一 に入る状態を表す言葉として最もふさわしいものを次のア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

ア. はきはきと イ. がみがみと ウ. ぼそぼそと エ. がたがたと オ. けたけたと

問二 ——部①「赤ちゃん時代には、目は自然に注目する対象であつたのに、大人になつたら『目を見て話せ』とマニュアルにわざわざ書かれる」とあります。どういうことですか。次のア～エの説明の中から最もふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 赤ちゃんのときは相手の目に自然と注目するものだが、大人になると社会的なマナーとして相手の目を見て話すことを強要されるということ。

イ. 赤ちゃんのときは相手の目に自然と注目するものだが、大人になると一般的な教養の一環として礼儀を一から教えてもらう機会があるということ。

ウ. 赤ちゃんのときは生まれたとき最初に目に注目するものだが、大人になると社会的なマナーとして目ではなく顔全体に注目して話すことを強要されるということ。

エ. 赤ちゃんのときは生まれたときに顔全体の表情に注目するものだが、大人になるとつれて次第に顔を見ずに話すことが多くなるということ。

問三 □ X 部について、

(1) 次のア～ウを内容にふさわしい順番に並びかえなさい。

ア. 対する欧米人は、顔を見る規則に則り、顔を全体で見ようとしていました。

イ. 日本人は顔を記憶する時は、あまり目を見ないことがわかりました。

ウ. 顔を覚えようして相手を見るときには、日本人は相手の目から視線をそらし、少し下の口あたりに注目したのです。

(2) この筆者の考えについて、あなたはどのように思いますか。自身の経験に基づいて、簡単にまとめなさい。

《下書き用 余白》

問四 ――部②「しおぎを削って」を言い換えると、どのような語句になりますか。五字以内で答えなさい。

問五 □ I
□ V にふさわしい言葉を次のア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア. しかし イ. なぜ ウ. まずは エ. つまり オ. たとえば

問六 ――部③「役に立たないどころか、実害すらあります。」とありますが、なぜですか。本文中から五十～五十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問七 ――部④「文化的違い」が生じる原因について説明した次のア～エからふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 大げさな表情のつくり方を良しとしない日本の文化と欧米の文化には、常に大きな溝があるから。

イ. 大げさな表情のつくり方をする欧米と、繊細な表情のやり取りを主とする日本との違いが、互いの文化を形成していくから。

ウ. 大げさな表情のつくり方をする日本と、繊細な表情のやり取りを主とする諸外国との違いが、互いの文化を形成していくから。

エ. 日本を含む東アジアと欧米の子育ての方法が全く異なっていることが、互いの文化的な形成につながっているから。

問八

Y

を補うのにふさわしい語句を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 視線で感情を読めることが当たり前
- イ. 態度で感情を読めることが当たり前
- ウ. 空気を読めることが当たり前
- エ. 空気を読めないことが当たり前

問九 本文の内容と合っているものには○を、間違っているものには×をそれぞれ答えなさい。

- ア. 日本人の多くは「恥ずかしがり屋」の気質をもっており、幼いころから視線を合わせて話ができない。
- イ. 「日本人は顔ではなくて、ネクタイを見ている」と言われるくらい視線を外すのに対して、表情を区別するときには目の周りを見るという矛盾した傾向はある。
- ウ. 心理学を利用して物事を考えるとには、自身の経験と合わせた最新の研究成果を用いることが必要である。
- エ. 一九七〇年頃のアメリカの発達心理学者による「愛着理論」では、日本人に比べて欧米人の子育てに大きな問題があることが提唱された。
- オ. 日本人特有の表情のやり取りの繊細さは幼いころから身につけているものであり、いわば特殊能力といえるものである。

〔二〕次の各問いに答えなさい。

A 漢字に関する問題

問一次の――部①～⑩のカタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

- ① シキ折々の風景を楽しむ。
- ② 世界イサンに登録される予定だ。
- ③ 色々な国とボウエキをする。
- ④ 電車の運賃をセイサンする。
- ⑤ 感じたことをソツチヨクに言う。
- ⑥ 徒競走のタイムをハカル。
- ⑦ 精神的負担をシいる作業だった。
- ⑧ 日本は木造の家屋が多い。
- ⑨ 舞台の上手より入場する。
- ⑩ 先祖代々の墓に花を供える。

B ことわざ・慣用句に関する問題

問二次の――部①～⑤の慣用句の使われ方として適切なものには○、そうでないものには×を答えなさい。

- ① これまでの彼女の実績を考えると、新人の彼女にとつては役不足だ。
- ② 彼は今では押しも押されもせぬ大スターになつていてる。
- ③ あの人は気の~~おかげ~~ない人だから、うかつなことは言えない。
- ④ 同窓会で十年ぶりにクラスメイトと会い、~~旧交~~を交える。
- ⑤ 緊急地震速報のアラームの音に耳をそばだてた。

C 文法・言葉づかいに関する問題

問三 次の文章は、音楽部の中野さんが新入生歓迎で発表する部活動についての紹介文です。紹介文の中で敬語の使い方が適切でない部分が一ヵ所あります。その部分を文章中から五字以内で抜き出し、正しく直しなさい。

こんにちは、音楽部です。私たち音楽部は、今年度、八十四名の部員で活動しています。顧問は、いつも笑顔で優しい石沢先生、また元顧問の宮山先生が時々コーチに参ります。主にコンクールや定期演奏会に向けた練習を中心に行っています。目標は、全国大会金賞です。みんなとても仲良しで、充実した学校生活を送っています。初心者も大歓迎ですので、ぜひ来てください。

問四 次の会話文は、SNS（ソーシャルネットワーキングサービスの略。インターネット上のコミュニティサイト）上でクラスメイトX、Y、Zさんのやりとりである。あとの問い合わせに答えなさい。

Xさん 「今度、映画を観に行こうよ！」

Yさん 「私も行きたい！」

Zさん 「何で来るの？」

(1) SNS上では感情が伝わりにくく、しばしば相手に誤解されてしまうことがあります。右の会話文の中で、意味が二通りにとらえられてしまつたため、相手に誤解を与えてしまう人がいますが、それは誰ですか。Xさん、Yさん、Zさんの中から一人選びなさい。

(2) (1)で選んだ人の会話文について、本来伝えたい内容を明記しつつ、相手に対して失礼にならないよう十字以内の会話文に直しなさい。

問題は以上です